

人権と人間の安全保障について

1. 人間の安全保障とは？(定義)

“Human Security Now” by Commission on Human Security (2003)

人間の安全保障は、「人間の生によってかけがいのない中枢部分を守り、すべての人の自由と可能性を実現すること」

さらにこの考え方を、深掘すれば・・・

新しいODA中期政策(草案。1月完成予定)

→ 近年、グローバル化の深化により、国際社会はこれまでにない緊密な相互依存関係を持つようになった。しかし、同時に、テロや環境破壊、HIV/エイズ等の感染症、国際組織犯罪といった国境を越えた脅威、突然の経済危機や内戦などによる人道上の危機が増大している。これらに対応していくにはグローバルな視点や地域・国レベルの視点とともに、個々の人間に着目した「人間の安全保障」の視点を導入する必要がある。

「人間の安全保障」は、一人一人の人間を中心に据えて、脅威にさらされ得る、あるいは現に脅威の下にある個人及び地域社会の保護と能力強化を通じ、各人が尊厳ある生命を全うできるような社会づくりを目指す考え方である。具体的には、紛争、テロ、難民の発生、感染症の蔓延、環境破壊、経済危機、災害といった「恐怖」や、貧困、飢餓、教育・保健サービスの欠如などの「欠乏」といった脅威から個人を保護し、また、脅威に対処するために人々が自らのために選択・行動する能力を強化することである。

2. 人権と人間の安全保障

アマルティア・セン(ノーベル経済学賞受賞者。現在ケンブリッジ大学学長)によれば

人権と人間の安全保障は相互に補完し合い、高めあう関係にある

牧野の理解

- ・ 「守るべき部分」自体は基本的に同じ(あるいは人権が広義か)。どちらかというとな人間の安全保障は、途上国の人権擁護の実現のための戦略、アクション的性格を持っていると考えられるのでは。
- ・ 先日 UNICEF の Judd 本部事業部長と話しをした結果、Rights based approach と人間の安全保障に共通性があることに共鳴。
- ・ 双方の違いは例えば、人間の安全保障は人々の持つ「脆弱性」や「ダウンサイドリスク」という、人生あるいは生活の極めて不安定な部分、ダイナミズムにも焦点を当てていることなど。

3. JICA の対応

- 人間の安全保障の考え方を踏まえた開発あるいは援助は、個々の人々やコミュニティーへ視点を置くこと、次々と襲いかかるショック(「ダウンサイドリスク」)への着目、人々や国等の弱さ(現在貧しいことと将来もっと貧しくなること(脆弱性))の克服/軽減などが焦点となると理解。
- 具現化のアプローチとして、Empowerment(能力強化:下へのアプローチ)や Protection(保護:上へのアプローチ)の組み合わせ、様々な開発主体とのネットワーキング、社会構造分析の深化、複数分野・課題にまたがるアクションなどの総合的な取組みなどを重要視。その考えに基づいて、国別の実施方針やプログラムを形成・実施。
- 環境社会配慮ガイドライン適用を通じた、人権擁護への配慮。
- ただし、バイのドナー(援助実施機関)が「人権」ということを正面から途上国政府と話し合う難しさも考慮要(ちなみに Rights based approach を標榜するドナーは、国よっては Rights という言葉を一切使わないで援助を進める柔軟さあり)

以上

補論 人間の安全保障と援助の理論的説明(「ポンチ絵」)

